

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	310 介護用品購入費給付事業	会計	09	介護保険事業特別会計
		款	02	保険給付費
		項	06	市町村特別給付費
基本 施策	06 高齢者の健やかな生活を支える	目	01	市町村特別給付費
		細目	561	介護用品等給付費
		細々目	01	介護用品等給付費
行革大綱の重点事項番号				
担当課	コード 130500 名称 介護高齢福祉課	担当者 氏名 森 義尚	連絡先 22 - 9634 (内線) 2673	

事務事業の概要 (Plan)

対象(誰を、何を)	要介護3以上で介護用品の使用が必要な65歳以上の在宅高齢者 ※対象件数
成果(どうする)	介護用品の購入費用を助成することで、経済的な支援を図る。
根拠法令・要綱等	伊賀市介護用品購入費給付事業実施要綱
開始年度	平成 21 年度
終了年度	平成 年度
H21 事業 内容	介護用品(紙おむつ、尿取りパット、紙パンツ、フラット)の購入に係る費用について、1ヵ月あたり上限4,000円の9割を助成する。 平成21年度より事業開始。
社会情勢 の変化等	高齢者及び要介護認定者の増加に伴い、介護用品を購入する対象者も増加傾向にある。

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
			年間申請件数	件	目標 実績	目標 実績

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
				年間申請件数	1年間の申請総件数	件	目標 実績

投入コスト	H20 決算		H21 決算		H22 当初予算		H23 当初要求	
	(千円)		(千円)		(千円)		(千円)	
直接事業費計 (A)			19,357		21,600		22,000	
Aの 財源 内訳								
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他			19,357		21,600		22,000	
一般財源	0		0		0		0	
事業投入人件費 (B)	人	0	0.1人	720	0.1人	720	0.1人	720
フルコスト(A)+(B)	0		20,077		22,320		22,720	

事務事業の評価 (Check)

	判断の基準(該当項目に○をつけてください)	備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	○
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	○
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	○
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは市場全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	○
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		
財政状況を考慮し、事業を休止した場合、市民生活への影響が大きい事業		
【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。 基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高	○
達成度	当初設定した計画を 100% 実施している。 予算の繰越の有無 無 【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	【計画に遅れが生じている場合、改善策】
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。 基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。 【事業名】 受益者負担を求めることができる事業である。 全体コストにおける負担構成は適正である。 コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	○

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	
昨年度の取組状況	【状況】 【詳細】

今後の方向性 (Action)

担当課長氏名	植田美由喜
事業の方向性	【方向性】 現状維持 【理由】 一定の申請件数からその必要性は高いため、現状のまま継続する。
現時点における課題、その他	対象者が増加の一途で、申請手続きや事務処理に手間がかかる。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	平成23年度に申請手続きの見直しを行う。